No. 1

政務活動報告書

平成29年 4月14日

白石市議会議長　佐久間　儀　郎　殿

議員氏名　大町栄信

下記のとおり行いましたので報告いたします。

期　　間	平成29年 3月30日（木） ～ 3月31日（金）
調査・研修先	衆議院第2議員会館
調査事項 （研修事項）	① 地方創生の課題と展望. ② 森林・林業・木材産業の現状と課題. ③ 道の駅の目的と機能, スマートインターについて.
対応者・講師等	①寺田にん.. 清橋秀聡. 竹内勇喜. 柴田芳雄.
概要 ① 背景・目的 ② 内容・特色 ③ 主な質疑 ④ 考察 （感想、課題、政策提言等）	1. 地方創生の課題と展望. ○日本の総人口は今後100年間で100年前（明治時代後半）の水準に戻っていく可能性. この変化は千年単位でみても類を見ない. 極めて急激な減少である. ○少子高齢化の進展に的確に対応し、人口減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくために、まち、ひと、しごと創生に関する施策を総合的かつ計画的に実施する。概要である ◎まち、ひと、しごと創生「長期ビジョン」が目指す将来の方向. ○人口問題に対する基本認識―「人口減少時代の到来 ○今後の基本的視点 ①東京一極集中の是正 ②若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現 ③地域の特性に即した地域課題の解決 など国民の希望の実現に全力を注ぐことが重要である. ◎目指すべき将来の方向―将来にわたって「活力ある日本社会」を維持する.

白石市議会 29.4.14 受付

◎地方創生がもたらす日本社会の姿（地方創生が目指す方向）
・自らの地域資源を活用した、多様な地域社会の形成を目指す。
・外部との積極的なつながりにより、新たな視点から活性化を図る
・地方創生が実現すれば、地方が先行して若返る
・東京圏は世界に開かれた「国際都市」への発展を目指す。

◎まち、ひと、しごと創生基本方針（主なポイント）
1. 地方創生の本格展開―各分野の政策の推進
・ローカル・アベノミクスの実現 ・企業の地方拠点強化 ・政府関係機関の移転 ・生涯活躍のまち ・地域の実情に応じた働き方改革 ・稼げるまちづくり ・連携中枢都市圏 ・小さな拠点・地域運営組織形成
2. 地域特性に応じた戦略の推進
・地域特性別モデルの形成 ・地域特性別政策メニューの整備
3. 地方への支援（地方創生版・3本の矢）
・情報支援 ・人材支援 ・財政支援

◎地方に仕事をつくり、安心して働けるようにする
1. 地域におけるしごと創出
・地域の魅力のブランド化（マーケティングとブランディングを徹底することで、既存市場の奪い合いにならない、新たな市場の開拓に大きな可能性。
・地域の技の国際化（地域企業には自分の実力を知る機会も、事業化ノウハウも不足）
・地域のしごとの高度化（売上げを伸ばしても、生産性をひき上げない限り、賃金も上がられず、投資も呼び込めない。地域経済の7割を占めるサービス業への投資も、需要密度が高い都市部に偏在。

2 空き店舗活用方策の検討

○地域の「稼ぐ力」を向上させるためには、遊休資産の有効活用が必要。特に、需要密度が相対的に高い商業地域においては、空店舗の解消が大きな課題となっている。

○全国的に商店街の空店舗に関する状況を精査し、インセンティブ施策、ディスインセンティブ施策の両面から検討を行い、その結果について2017年春を目途に取りまとめ。

3 遊休農地も活用しつつ農村地域における雇用と所得の創出を推進

地域未来牽引事業への投資の促進を図る

◎地方への新しいひとの流れをつくる

○政府関係機関の地方移転（中央省庁の地方移転、生涯活躍のまち構想、地方大学の振興等、地方創生インターンシップ事業）

◎若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

◎時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する

◎ライフスタイルを見つめ直す。

地方生活の魅力の見直し・歴史の発掘・文化の振興など。

◎地方創生人材支援制度（地方創生に積極的に取り組む市町村に対して、意欲と能力のある国家公務員や大学研究者、民間人材を、市町村長の補佐役として派遣する。

平成29年度、地方創生関連予算について

①地方創生推進交付金の確保　1,000億円

②総合戦略等を踏まえた個別施策　6,536億円

③まち、ひと、しごと創生事業費　1兆円

④社会保障の充実　1兆224億円

尚、地方創生事例については全国で、たくさんあり別冊として受けました。

2. 森林・林業・木材産業の現状と課題
講師 斉山隆史
(1) 森林の状況
我が国は世界有数の森林国で森林面積は国土の66%にあたる約2500万haあります
人工林の半数以上が10齢級以上で主伐期を迎え、資源を有効活用すると同時に、計画的に再造成することが必要な段階にある。
(2) 木質バイオマスのエネルギー利用について
・バイオマスのエネルギー利用は、再生可能エネルギーの推進や林業、地域経済の活性化等にも貢献。
・主に未利用木材を使用する木質バイオマス発電施設は、平成28年10月末現在、34ヶ所で稼働している。
・公共施設や一般家庭において木質バイオマスを燃料とするボイラーやストーブの導入が進展。特にボイラーは温泉施設や施設園芸等でも利用が進んでおり、導入数は増加傾向。
・再生可能エネルギーの固定価格買取制度を活用しつつ、木質バイオマス利用施設の整備や技術開発、川上との連携による安定的な供給体制の整備等を推進することが課題。

3 スマートインターについて
◎スマートインターチェンジは通行可能な車両をETCを搭載した車両に限定しているインターチェンジ。◎ETC専用のため、料金徴収施設を集約する必要がなく、コンパクトな整備が可能。◎料金徴収にかかる人件費も節約可能
◎白石市においては白石インターと国見インター間20km以上あり設置の必要性があるとの考えから。(企業立地・観光支援)など。

ぜひスマートインターは必要であると考える

4. 白石市内に「道の駅」の新設について
- 「道の駅」の目的は道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供
- 地域の振興に寄与する。
- 農産物や物産、プラス観光など白石の顔となりうる道の駅として考えてみるべきと思う。

5、海老名市の図書館視察について
海老名市立図書館は市の北寄りに中央図書館、南に有馬図書館をもち、その他に市内数箇所に予約資料受け取りや資料返却のできるコーナーが設けられている。2011年から図書館2館の運営業務を図書館流通センターに委託。2014年からは指定管理者制度による運営を開始、カルチュア・コンビニエンス・クラブおよび図書館流通センターの共同事業体が指定管理者となっている。2015年には中央公民館がフロア規模を拡大し書店やカフェを併設して改装オープンした。いわゆる「TSUTAYA図書館」としては武雄市図書館に次ぐ2例目となった。
◎図書館は地下1階地上4階まであり館内はほんとうに図書館らしく静かで美しく市民の皆さんが大切にしている、ことがわかる
- すばらしい図書館を研修させていただいた。